

令和3年度名古屋市教育委員会第33号議案

名古屋市立高坂小学校と名古屋市立しまだ小学校の統合について

このことについて、ナゴヤ子どもいきいき学校づくり計画に基づき、下記のとおり統合を決定する。

記

1 名称

別に定める。

2 位置

名古屋市天白区御前場町351番地（名古屋市立しまだ小学校敷地）

ただし、新校舎の整備終了までは、名古屋市天白区高坂町89番地（名古屋市立高坂小学校敷地）

3 時期（予定）

令和6年4月1日

4 その他

統合に伴い、名古屋市立高坂小学校と名古屋市立しまだ小学校は廃止する。

令和3年7月16日

名古屋市教育委員会 様

名古屋市子どもいきいき学校づくり推進審議会
会長 土屋 武志

高坂小学校としまだ小学校の統合に関する個別プラン（答申）

令和2年12月14日付け、2教教環第13号で諮問がありました「高坂小学校としまだ小学校の統合に関する個別プラン」については、「ナゴヤ子どもいきいき学校づくり計画」の趣旨を踏まえ、次の点に留意して取り組みを進めて下さい。

- 1 教職員、保護者、地域と一体となって子どもたちを見守り、その成長を支えることができるよう、新しい学校づくりのための協議に取り組むこと。
- 2 施設整備に当たっては、安心・安全かつ統合校が目指す学校ビジョンの実現が図れるような学校施設となるよう取り組むこと。
- 3 起伏のある地域であることを踏まえた通学の負担面・安全面などを考慮し、統合時に通学距離が非常に長くなる児童については、通学条件などを勘案し、通学区域の柔軟な対応を検討すること。

添付資料

高坂小学校としまだ小学校の統合に関する個別プラン（答申）について（別紙1）

高坂小学校としまだ小学校の統合に関する個別プラン（諮問）（別紙2）

高坂小学校としまだ小学校の統合に関する個別プラン（答申）について

1 答申に係る配慮事項

(1) 新しい学校づくり

- ・学級編成ができるようになると、子どもの人間関係の広がり生まれ、多くの教職員により多様な視点から子どもを見守ることができるようになる等、統合による教育上の効果は大きい。統合を契機に子どもの成長を支える学校づくりができるよう、意識して取り組まれない。
- ・子どもたちが学び合い、育ち合うプロセスを、教職員、保護者、地域の方々が見守り、支えるために、統合前から両校の子どもや保護者、地域住民同士の交流活動を進めることなどにより、新しい地域観や学校観、指導観を関係者の間で創り上げていけるよう取り組まれない。
- ・新しい学校が目指すビジョンの実現に向け、統合に当たり子どもに手厚いサポートを行えるよう教職員の人的配置に努められたい。
- ・今後の説明・協議については、実施する時間帯などを工夫するとともに、保護者や地域の方々の中に様々な意見があることを十分に踏まえつつ、取り組まれない。

(2) 施設整備の方向性

- ・新校舎等の設計・施工にあたっては、児童が安心して通えるよう十分な調査を行うとともに、必要な技術的対策を実施されたい。

なお、当審議会では、次の点について説明を受けた。

- ① しまだ小学校に隣接する鉄塔及びその周囲の法面について、中部電力パワーグリッド株式会社から直接説明を受けるとともに、当該鉄塔に関する図面を含む説明資料の提供を受け、鉄塔建設後に周辺地形が変化していることを含め、法令に基づく安全性が確保されていること。
- ② しまだ小学校の敷地の一部に液状化の発生する可能性があると言われる場所があることについて、名古屋大学減災連携研究センターに問い合わせ、技術的観点から、地盤状況を踏まえた適切な液状化対策が行われれば整備する校舎本体に安全面での大きな影響はないとの意見を得たこと。また、液状化の発生する可能性があると言われるエリアにおいてボーリング調査を実施し、液状化発生の可能性がないとの判定であったこと。
- ③ 統合校の新校舎は土砂災害警戒区域の範囲外である場所に、設計段階において地盤調査をした上で建設される構想であること。

- ・市が目指す「なかまとの対話を大切にし、ICTを活用して、主体的に学ぶ子ども」の育成と、統合校の目指す学校ビジョンの実現が図れるよう、施設整備に取り組まれない。
- ・広い敷地を活用し、子どもたちが伸び伸びと学校生活を送ることのできる施設を整備されたい。
- ・建て替えにより長期にわたり利用することとなる新校舎等については、今後の教育環境に対するニーズや子どもを取り巻く状況の変化も見据えながら、それらに対応できるような視点をもった施設整備を進められたい。

(3) 通学の安全・通学区域

ア 通学の安全

- ・通学路の安全対策は、保護者や地域の方々と連携を図り、児童の安全確保を徹底するという意識をもって取り組まれない。
- ・想定される通学路では、交通量が多く右折レーンの短い信号交差点を歩車分離式としたり、ガードレールなどの交通安全施設を整備する等、児童の安全確保に向け関係行政機関と協議されたい。

イ 通学区域

- ・起伏のある地域であることを踏まえ、児童の通学時の負担面や安全面などを考慮し、通学先となる学校について柔軟な対応を検討されたい。
- ・統合時に、これまでと比べ通学距離が非常に長くなる児童については、諸条件を調査の上、別の学校に通えるような柔軟な対応を検討されたい。

2 審議の経過

(1) 審議前の経過報告

ア 令和元年 12 月 2 日

ナゴヤ子どもいきいき学校づくり計画に関する説明を受け、意見交換を行った。

イ 令和 2 年 11 月 20 日

高坂小学校としまだ小学校の統合に関する取組状況の報告を受け、意見交換を行った。

(2) 諮問及び審議の経過

ア 令和 2 年 12 月 14 日

「高坂小学校としまだ小学校の統合に関する個別プラン」について諮問され、審議を行った。

イ 令和 3 年 1 月 14 日

しまだ小学校及び高坂小学校並びに想定される通学路について現地調査を行った。

ウ 令和 3 年 2 月 5 日

「高坂小学校としまだ小学校の統合に関する個別プラン」について審議を行った。

エ 令和 3 年 4 月 15 日

「高坂小学校としまだ小学校の統合に関する個別プラン」について審議を行った。

オ 令和 3 年 5 月 25 日

「高坂小学校としまだ小学校の統合に関する個別プラン」について審議を行った。

カ 令和 3 年 6 月 17 日

「高坂小学校としまだ小学校の統合に関する個別プラン」について審議を行った。

キ 令和 3 年 7 月 16 日

「高坂小学校としまだ小学校の統合に関する個別プラン」について、答申（案）に基づいて審議を行った。

(3) 答申

令和 3 年 7 月 16 日

「高坂小学校としまだ小学校の統合に関する個別プラン」について答申した。

2 教 教 環 第 13 号
令和2年12月14日

名古屋市子どもいきいき学校づくり推進審議会
会長 土屋 武志 様

名古屋市教育委員会

高坂小学校としまだ小学校の統合に関する個別プラン（諮問）

みだしのことにつきまして、名古屋市子どもいきいき学校づくり推進審議会
条例（令和元年名古屋市条例第16号）第2条の規定により別添のとおり諮問
いたします。

高坂小学校としまだ小学校の統合に関する個別プラン（諮問）

1 取り組みを行う学校

（1）対象校：高坂小学校（天白区）

①選定理由

高坂小学校は小規模校であり、今後も小規模校が継続する見込みであることから、取り組みを行う学校として選定する。

②学級数・児童数（令和2年度）

区分	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特支	合計
学級数	1学級	1学級	1学級	1学級	1学級	1学級	2学級	8学級
児童数	21人	20人	16人	14人	20人	14人	3人	108人

※特支：特別支援学級

③未就学児数（令和2年度）

区分	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
人数	15人	27人	31人	29人	26人	20人	148人

④学級数及び児童数の見込み

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
学級数	6学級	6学級	6学級	6学級	6学級	6学級	6学級
児童数	105人	108人	116人	126人	137人	137人	131人

※特別支援学級の学級数・児童数は含まない。

⑤沿革

昭和42年6月 天白小学校分校として開校

昭和44年9月 高坂小学校として開校

(2) 相手校（関係校）：しまだ小学校（天白区）

①選定理由

○出身の幼稚園・保育園の状況が、久方中学校区の小学校の中では高坂小学校・しまだ小学校のつながりが深い。

○しまだ小学校の敷地面積が、久方中学校区の小学校の中で一番広い。

※敷地面積は、高坂小学校が 12,396 m²、しまだ小学校が 16,579 m²、相生小学校 11,592 m²。

○しまだ小学校を統合地とした場合、両学区での通学距離が概ね 2 km以内となる。

※通学距離（最も遠い地点からの距離）

高坂学区（久方三丁目～しまだ小学校 1.7 km）

しまだ学区（高島二丁目～高坂小学校 2.1 km）

②学級数・児童数（令和 2 年度）

区分	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特支	合計
学級数	3 学級	3 学級	2 学級	2 学級	2 学級	2 学級	2 学級	16 学級
児童数	63 人	67 人	57 人	64 人	76 人	65 人	5 人	397 人

※特支：特別支援学級

③未就学児数（令和 2 年度）

区分	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
人数	55 人	66 人	65 人	49 人	58 人	60 人	353 人

④学級数及び児童数の見込み

区分	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度
学級数	14 学級	13 学級	12 学級	12 学級	13 学級	14 学級	13 学級
児童数	392 人	385 人	366 人	351 人	352 人	354 人	351 人

※特別支援学級の学級数・児童数は含まない。

⑤沿革

昭和 47 年 4 月 しまだ小学校として開校（高坂小から分離新設）

2 取り組みの方法等

(1) 取り組みの方法

高坂小学校としまだ小学校を統合する。

(2) 統合場所

現在のしまだ小学校の場所を統合場所とする。

選定理由は、1 (2) ①のとおり。

(3) 統合校の規模

①学級数・児童数（令和 2 年度の児童数合算、これをもとにした学級数）

区分	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特支	合計
学級数	3 学級	3 学級	2 学級	2 学級	3 学級	2 学級	2 学級	19 学級
児童数	84 人	87 人	73 人	78 人	96 人	79 人	8 人	505 人

※特支：特別支援学級

②通学区域内の未就学児数（令和 2 年度の未就学児数合算）

区分	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
人数	70 人	93 人	96 人	78 人	84 人	80 人	501 人

③統合を想定した場合の学級数及び児童数の見込み

区分	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度
学級数	15 学級	16 学級	16 学級	16 学級	17 学級	16 学級	15 学級
児童数	497 人	493 人	482 人	477 人	489 人	491 人	482 人

※特別支援学級の学級数・児童数は含まない。

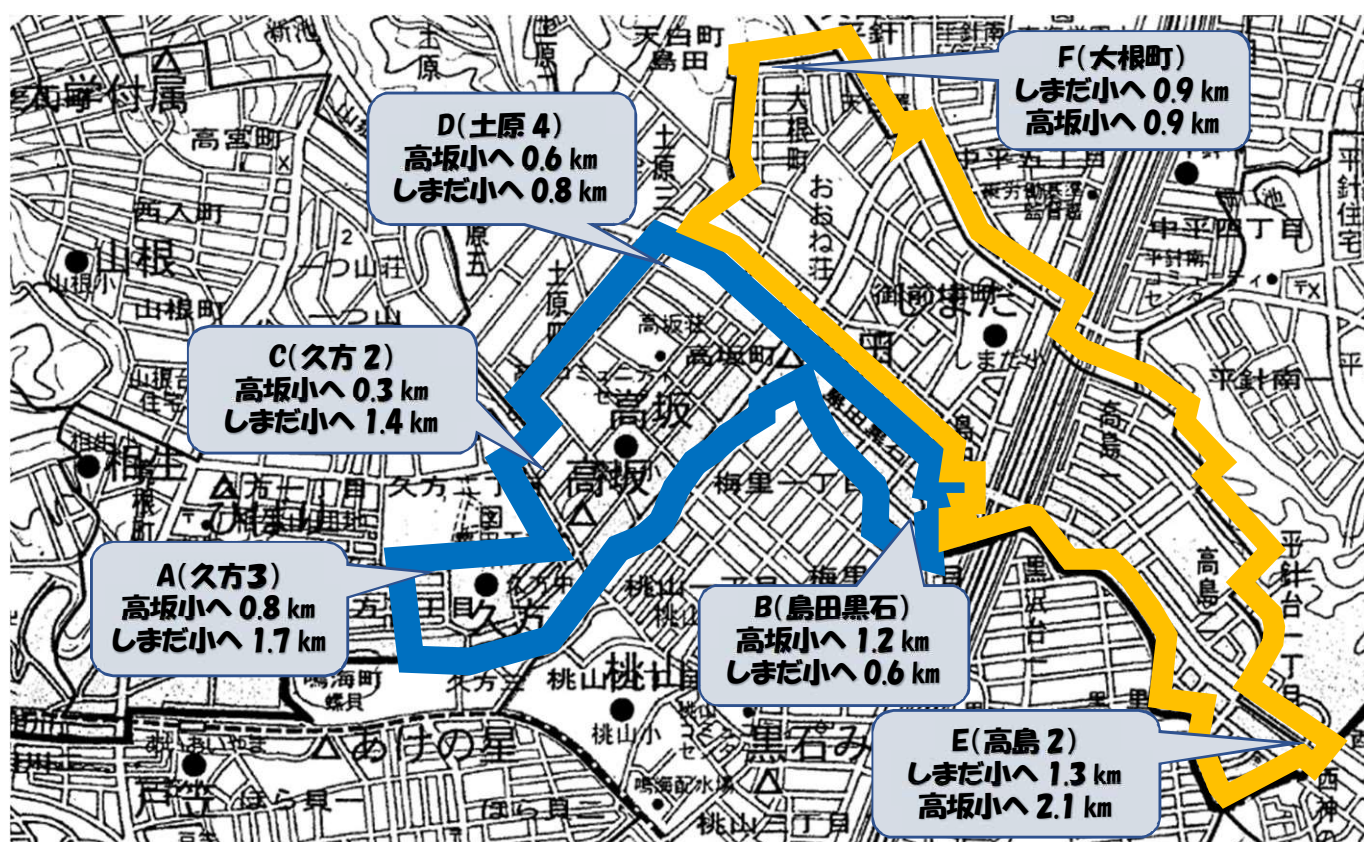
3 通学区域等

(1) 通学区域

新しい通学区域は、現在の高坂小学校及びしまだ小学校の通学区域とする。

(2) 通学距離

区分	現状の学区	現状の通学距離	取り組み後の通学距離
A (久方 3)	高坂学区	高坂小まで約 0.8 km	しまだ小まで約 1.7 km
B (島田黒石)	高坂学区	高坂小まで約 1.2 km	しまだ小まで約 0.6 km
C (久方 2)	高坂学区	高坂小まで約 0.3 km	しまだ小まで約 1.4 km
D (土原 4)	高坂学区	高坂小まで約 0.6 km	しまだ小まで約 0.8 km
E (高島 2)	しまだ学区	しまだ小まで約 1.3 km (参考) 高坂小まで約 2.1 km	
F (大根町)	しまだ学区	しまだ小まで約 0.9 km (参考) 高坂小まで約 0.9 km	



※この地図の作成にあたっては、名古屋市学校配置図の一部を使用し、複製した。(東洋地図株式会社承諾済)

(3) 安全対策

統合の決定後、統合校の開校に向けて、安全点検や地域・交通状況などの特性を踏まえて新しい通学路を設定するとともに、必要な安全対策について関係行政機関と連携を図り、通学の安全確保に取り組む。

(取り組みの例)

信号機や歩道橋の設置状況を踏まえた通学路の検討、歩行者用信号機やガードレールなどの安全施設設置の検討、注意標識設置の検討、交通指導員配置の検討、地域ボランティア等見守り活動への協力依頼や実施検討、通学練習会実施の検討等

4 施設整備の方向性

統合にあわせて、現在のしまだ小学校の校舎等を全面的に取り壊し、新築する。

イメージ図



5 今後のスケジュール（想定）

統合校を新築により整備する場合、児童の安心・安全な学校生活が確保できるような学校運営等を前提とした検討が必要となる。これまでの統合校（ほのか小学校、笹島小学校（笹島中学校との併設）、なごや小学校）では、いずれも工事期間中、児童等は一時的に通学場所を変更している。

下のフローチャートは、これまでの事例を踏まえ、想定されるスケジュールである。

